

「プレゼンティズムを予防し地域の看護師が持続して働きやすい環境づくりをIoTで実現する」

研究代表者：白鳥 義宗（名古屋大学）
研究開発期間：令和2年度～令和4年度

【研究の概要・目標】

少子高齢化がいち早く進む地域の医療現場では、看護師の高齢化も急速に進んでおり、肉体的負荷に対する脆弱化が進行している。愛知県では奥三河北部地区で顕著であり、新城市を中心としたこの地域は高齢化率35%で医療受給率も高い。中核病院である新城市民病院は看護師数112人・平均年齢は43歳と全国平均より4歳高齢であり、腰痛をはじめとする何らかの心身の不調を訴える看護師は4割にのぼる。

我々は心身に何らかの不調があるために十分なパフォーマンスを発揮できず業務遂行能力が低下するプレゼンティズムの状態に注目した、厚労省調査では女性で影響が大きく、早期発見・対策が重要であるが看護師は多忙な中早期発見・対策は難しく、進行すると離職（アブゼンティズム）につながる。本研究開発ではプレゼンティズムの主要因である腰痛や膝痛（の原因となる看護動作）やストレスや不眠（に影響がある日夜勤の移動量）をIoTを利用して検出し、プレゼンティズムの進行リスクを評価、適切な運動や休息を促す仕組みを導入することでプレゼンティズムや離職を防ぎ、地域の看護師が持続して働きやすい環境づくりを実現する。

